

事務事業	13015	河川美化活動団体支援事業	担当課	都市整備課	担当係	都市整備係
------	-------	--------------	-----	-------	-----	-------

計後 画期 体計 系画	施策	12	自然環境を維持し、保全するまちをつくる	予 算 科 目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	370	自然保護に対する町民の意識を高める		款	8	土木費
					項	3	河川費
					目	1	河川総務費

法令根拠条例等		個別計画	
---------	--	------	--

実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	H15 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度～	年度
------	---------------------------------	---	------------	------------------------------------	-----	----

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
河川美化活動を促進するため、ボランティア団体等の支援活動を図る。 「うみ川クリーンアップ実行委員会」が、宇美川河川周辺に捨ててあるゴミの清掃等の河川美化作業を実施しており、その活動に対して補助金を交付することで支援を行っている。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		
職員はうみ川クリーンアップ実行委員会の河川美化活動を支援する。		
主 な 事 業 費 の 内 訳	河川美化活動補助金	50 千円
		千円
		千円
		千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) 「うみ川クリーンアップ実行委員会」が行う宇美川河川周辺に捨ててあるゴミの清掃等の河川美化作業を支援する。建設協力会への支援依頼等。
② 対象(誰、何を対象にしているのか)	河川美化活動団体、町民
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか)	自然環境保全活動を行う

④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 河川美化活動日数	日	1	1	1 (見込)	
イ 補助した金額	千円	50	50	50 (見込)	
ウ				(見込)	
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 活動団体数	団体	1	1	1 (見込)	
イ 人口	人	45,835	46,080	46,100 (見込)	
ウ				(見込)	
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
名称	単位		29年度	30年度	31年度
ア 河川美化活動に参加した町民の割合	%	目標	0.66	0.66	0.66
		実績	0.44	0.44	
イ 職員が参加した数	人	目標	18	18	19
		実績	14	13	
ウ		目標			
		実績			
エ		目標			
		実績			
オ		目標			
		実績			

(2) 総事業費の推移

事 業 費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)	
	経 費	国・県支出金、地方債等							
		受益者負担等							
		一般財源	50	52	52	52	52	52	
		合計(A)	50	52	52	52	52	52	
		(内臨時・嘱託職員人件費)							
	正職員人件費[按分](B)	478	637	145	1,775				
トータルコスト(A)+(B)	528	689	197	1,827	52	52			

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成12年度に町民による「うみ川クリーンアップ実行委員会」が結成され、河川美化に関する活動が進められる中、平成14年度に町に対して活動補助金の要望があり、平成15年度より補助金を交付している。	開始当初と比べ、河川美化活動を通じ協働意識が向上し、さらには、参加者を含む住民の河川愛護意識が感じられる。	実行委員会からは、「多くの住民、町及び建設協力会の協力で、この活動が成り立っている。」との意見がある。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	この事業は参加者が増加すれば成果は確実に向上する。河川愛護意識が向上しており、広報活動やボランティア団体を積極的に支援し、参加者を増やし成果を向上させる。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→) ② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	① 河川美化活動を通じ、自然環境を保全しつつ、河川愛護の啓発活動につながっているため。 ② 河川美化活動を通じ、自然環境を保全し、住民の河川愛護意識の向上を目的としているため。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	河川愛護意識が向上しているため、これからの活動の広まりが期待できる。(参加町内会や宇美川の清掃範囲が年々拡大している。)
評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	住民の河川愛護意識が低下し、河川環境が悪化する恐れがある。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	団体の活動に係る最低限の予算であり、削除できない。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

本事業は河川美化活動を通じて、きれいで親しみやすい河川とするために活動しているものである。以前は、自転車や原動機付自転車等の大きな不法投棄物があったが、年々少なくなってきたり、今年度に関しては、原動機付自転車の不法投棄はゼロであった。

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	この事業は参加者が増加すれば成果は確実に向上する。河川愛護意識が向上しており、広報活動やボランティア団体を積極的に支援し、参加者を増やし成果を向上させる。